

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200529		
法人名	社会福祉法人 唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所きりご		
所在地	佐賀県唐津市肥前町切木548番地1		
自己評価作成日	令和6年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年2月21日	外部評価確定日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔あふれる楽しい我が家」を理念とし、本当の家のような親しみと安心を感じながら生活できる施設にしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

長閑な集落の中にこじんまりと建つ事業所である。運営推進会議を通して地域の実情など教えを乞いながら、持てる専門知識を活かし役に立つことがあればと努めている。また職員間のチームワークの良さはケアの質を向上させ、例えば入居者の転倒等のリスク回避へも繋がっている。何にでも手を貸すのではなく、見守りの中で待つ姿勢を実践している点も特長である。歳を重ねる毎に体力の低下は否めないところだが、現場には入居者との暮らしがあり、自然体で接するケアが功を奏している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「笑顔で敬意と思いやりをもって接します」を出勤職員全員で唱和し、利用者様との関わりの中で、その意識を共有することを毎日大切にしながら実践している。	開設から数年後に作り上げた理念である。当時の職員達が想いを込めている。目に付く場所への掲示と唱和によって意識付けも図っている。職員には年度毎の個人目標があり、併せて日々のケアに努めている。自然体で接する職員と穏やかに過ごす入居者の雰囲気には理念や目標が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、クリスマス会、正月会、切木小学校との交流があった。地域の美容室、電気屋さん利用、散歩時の声掛けあいさつなどはあるが、感染症対策によって外出自粛傾向がある。	自治会には未加入だが、地域の細かい情報等は運営推進会議や近隣の商店主からも得られている。一斉清掃などの共同作業は見られなくなったが、事業所に隣接する部分の除草作業は心掛けている。敬老会等の行事は内輪だけで行い、近隣住民を招くまでには至っていないが、採れた果物を貰うこともあり、地域との交流や見守り、また緊急時の応援を頼める関係は築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校の児童作成の大きなメッセージつきのハガキを子供達・先生方より頂きました。子供たちの高齢者を労わる気持ちを育むよい機会になったのではと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員さんの厚意で鳴門部屋の力士の方に訪問して頂いた。よい体験になったのではと感じている。	会議は概ね90分を要し、双方向な意見交換の場となっている。一期2年(延長可)の家族代表も参加し、当事者として意義を感じている。また地域役職のメンバーは長くこの土地に住む方々で実情を熟知しており、教えられる事も多い。行政の施策に事業所として関わられる事を検討したり、災害対策の情報を得たり、この会議が活用されているのが窺える。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面が見られることもメリットのひとつである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜必要時には連絡を取っている。特に運営推進会議で役員構成に市の担当がおられるので実情などは詳しく報告している。	行政側への相談事は話しやすく、実直に対応してもらえる関係を築いている。メールも活用しつつ、問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。最近の例では口腔ケア加算についてアドバイスを受けている。母体が社協であり詳しい部分もあるが、内容によって選択している。また月一回、介護相談員が2時間ほどの滞在をしており、入居者の話に耳を傾け事業所へ伝えてくれる事もある。今後も橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体的拘束適正化委員会にて自分たちの支援の在り方、意識改革を行っている。職員全員で話し合うことで相互理解にもつながっている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は、身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、3ヶ月に一度の勉強会もある。現在、その実施例はない。玄関に施錠もなく、入居者の安全な暮らしは職員の目配りや気配りによって支援されている。入居者にはリビングでの定位置があるため不在時の確認も早い。仮に不適切なケアが見られた場合は、状況を見て判断・対応することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護、虐待防止研修などに参加し理解を深め、施設にて共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護と虐待防止研修に介護職員が参加することができている。その内容は報告会で報告し各自理解を深めるよう周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項説明書の内容を、より理解していただけるようゆっくりと丁寧に説明するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に入って右側に「ご意見箱」を設置している。また面会時には出来るだけ家族様のお話を聞けるように時間をつくる配慮をしている。なるべく施設に訪問し、相談などしやすいように笑顔で対応することを心がけている。聞き取れた内容で必要があれば職員へ周知し配慮できるようにしている。	コロナ禍での面会規制は緩和され、現在は事務室など(居室不可)を提供している。毎月の請求書発送時にはホーム便りを同封し、ふんだんな写真から入居者の日常を垣間見ることできる。家族の来所は多く、事業所では直接話ができる機会を大切にしている。医療費負担について尋ねられた時は検査の必要性などを説き納得してもらった。率直な意見をきちんと受け止め活かす姿勢が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、管理者会議などで定期的に検討できる機会をも設けている。また、「勤務評定表」にて職員の意見が反映できるようにしている。	月一回の職員会議は全員参加とし、17時半から2時間ほど掛かる場合もある。入居者毎のカンファレンスや本部からの通達事項、また勉強会(研修報告あり)も組み込まれている。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として内容を事前周知し、各々が考えをまとめておく時間を持たせていたり、申し送りノート等を活用した日頃からの意見集めもある。職員は交替で司会役を務め、その経験から得るものもある。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、時にはケアに関わりながら現場の理解に努めている。職員達にある程度の裁量を任せていることからチームワークの良さも窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産前産後休暇を取得していた職員もいる。やりがいにつながるように、「楽しい」と思えるような雰囲気づくりには毎日努めている。継続して安心して働ける職場環境を目指し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	産前産後休暇を取得していた職員もいる。やりがいにつながるように、「楽しい」と思えるような雰囲気づくりには毎日努めている。継続して安心して働ける職場環境を目指し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会」にて勉強や交流会に参加するようにしている。昨年度には認知症介護実践リーダー研修に参加し、他の施設の職員との交流があった。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「フェイスシート」及び「退院・退所情報記録書」の活用や入所判定会議の情報を全職員に周知し、利用者様の不安が少しでもなくなるよう可能な限りの範囲で要望に応じるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談及び入所申込時等に不安な事や要望に応じるために聞き取り、傾聴をしている。なるべく話しやすい雰囲気になるよう笑顔での接客を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として支援可能な事、支援困難と思われることは説明をその都度行うようにしている。その中で家族様の意見を尊重できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ることは自分でする」を実践し、職員は一部介助を心掛けている。洗濯物を畳んだり掛けたり、洋服を着たり見守りの中自由にされている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など利用者様とご家族様の話された内容なども家族様から聞いてみる事で、多角的に支援できる様に見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用の支援やご家族様、友人様の面会を通し良好な関係の支援を行っているが、限られた利用者様に偏りがあり不十分な面あり。感染症における対応で縮小傾向がある。	入居までの人間関係の把握には本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所、また場合によっては病院のソーシャルワーカーからも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が組まれる訳だが、コロナ感染症がら類へ移行したとはいえ協力医の判断は慎重である。盆正月の帰宅等はもう暫く時間が掛かりそうだが、電話の取次ぎはいつでも可能であり、手紙に返事を書いてもらった例では家族にも喜んでもらった。また毎月発行のホーム便りはキーパーソン宅へ送られるが複数枚希望にも応えている。予期せぬ感染症で未だ規制はゼロではないが、入居者のこれまでの関係が維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性などに配慮し適度な距離を大切にしている。出来る限り自由で意向の尊重をすることを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、しばらくして元利用者様の経過を聞くために連絡をとった。その際に写真がほしいとの要望があった為、今までの本人様の顔が写った写真をご家族様に渡したという事があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常日頃、利用者様から聞き取りの中でなるべく意向をくみ取るように支援している。把握が困難な方へはご家族様のご意向や医師の意見等も参考にしている。	入居者と話をする時に心掛けていることは、まず目線を合わせる、急かさず待つ姿勢、スキンシップを交えて等が挙げられる。発語の少ない方とは昔の風景を載せた写真集や今のスナップ写真などをきっかけにしている。入居者が一番話をしてくれるのは入浴中の寛いだ状況や、隣に座り話し相手をしている時に多い。お気に入りの職員を待つ方もいる。聞き取ったことは口頭や全体日誌・個人日誌に記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「フェイスシート」等の入所時の情報や、利用者様との会話、面会時のご家族様からの情報により把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様一人ひとりの心身状況を観察し、状態の変化等は申し送りなどで、職員間で共有している。また、必要に応じて主治医に情報を伝え指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時は、本人様、職員との面談を行っている。また、必要に応じて主治医からの意見を受け、ご家族様に連絡、要望等の確認を行い、介護計画の作成に取り組んでいる。	ケアプランの見直し期間は3ヶ月毎とし、その間に変化があれば臨機応変に対応している。入居して間もない時期でも同様であり、当初の細かい聞き取りが活かされている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは、現状維持や手押し車の使用などの要望が寄せられ、サービス担当者会議でも説明を行っている。歳を重ねる毎に残存能力の低下は否めないが、今回の当外部評価アンケートには維持できていることへの感謝も記されている。現場の職員による日々のケアの積み重ねに他ならない。また毎月のモニタリングは職員会議のカンファレンスと併せ、適切に実施されているか等を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員が毎月評価する「介護サービス計画書評価表」を確認して、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分たちが出来る範囲のことはなんでも取り組んでいきたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後も運営推進会議の情報、意見等を上手に活用し利用者様によりよい支援として還元をしたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時対応など、協力医療機関へ電話相談を行い連携を図っている。また、主治医の指示により他科受診が必要な場合には、紹介状を持参して適切な医療を受けられるように支援している。	全ての入居者が協力医をかかりつけとしている。元々、協力医の患者だった方は病歴等も知っている安心感がある。入居後に協力医に変更を希望した方は、訪問診療などの話を聞き納得して選んでいる。口腔ケアの重要性から歯科の定期往診も受けられる。他科受診で出向く際には職員が同行し、その結果は当日中に電話連絡される。アンケートでは大半の家族が「健康面、医療面での心配はない」と答えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回の出勤で雇用出来ている。また、協力医療機関の看護師、医師と密に連絡を取れている状態ではある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「入院時情報提供書」「救カード」の活用、担当看護職員及びソーシャルワーカーとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「重度化した場合における対応及び看取り介護に関する指針」や「急変時及び終末期における医療や介護に関する意思確認書」にて確認し、緊急時対応時の指針としている。	入居契約時に指針の説明を行っている。入居者の急変により結果的に最期を看取った経験はあるものの、指針では次の対応先を検討する内容となっている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の想いを踏まえ、話し合いは何度も重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は自己判断はせず、状況の説明を協力医に行い、指示を仰ぎ対応する。その内容を職員全員に周知し、共有することで、どのように対応するのかの想定訓練としている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての訓練は9月、3月には地域の方の協力を受けて訓練を実施する予定。地震、災害については実施できていないので今後検討必要。	前回の訓練はコロナ感染症やインフルエンザの影響を考慮し事業所のみで行ったが、通常であれば消防署の立ち合いもある。訓練では入居者も一緒に避難を体験し、職員は通報装置や消火器の使い方も承知している。昼間帯に実施し、夜間想定では夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試みている。居室の名札を室内へ投げ入れる事で退避済の合図とし、非常食等の備蓄を充実させるため倉庫増設も予定している。避難場所は同法人の市高齢者生活福祉センターひぜん荘と決まっており、今後、家族へも周知される。訓練後の気付きや反省点はその場で伝えられ、改善項目は後日全員に周知される。次回の訓練では地域住民の参加協力を得る予定だが、職員だけでの避難・誘導の限界を踏まえ継続されることを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちでと利用者様を中心に考えられるよう精進している。	入浴やトイレの介助では羞恥心への配慮が求められる。ドアは確認のため隙間程度を開けることとし、タオルの活用もある。入居時には同性介助が良いか尋ねているが、慣れるまでは様子を見ながら対応している。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りでも声の大きさには注意を払っている。ホーム便り等への写真掲載も承諾を得ており、今後、居室の名札表示も確認する予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときなどは、利用者様の思いも確認し希望や自己決定を尊重し支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は概ね決まってはいるが臨機応変に対応することを心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換は利用者様が着たいと思う洋服を着て頂いている。あきらかに寒い、暑いと思われる場合にのみ説明し、増やしたり減らしたり一部を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜については外注(昼食・夕食)で、施設職員が利用者様一人ひとりに応じた食事形態で提供している。朝食と日祝日については、施設職員が調達しているため、食べたい物を聞いて、要望に応えるようにしている。	入居者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な献立や食材には代替えもある。副菜の配達がない日は契約店から食材が届けられ職員が調理している。歳を重ねる毎に手伝える方は少なくなった。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に止め、自助食器による工夫や、声掛けによって促す方もある。職員の食事は別時間となるが、傍らに座り声を掛けながら見守っている。また誕生日は家族からケーキが届くこともあり、当日に皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注により栄養バランス、摂取量共に一人ひとりに応じた食事を提供出来ている。水分摂取については、声掛けしながら十分に摂取できるよう心掛けている。お茶だけではなく、他の飲み物を提供したりして、飲み残しのないようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを利用者の能力に応じて行っている。また、入れ歯使用の方については、入れ歯洗浄剤を活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間紙オムツ利用者については、排泄パターンを把握し、定時間での声掛け誘導を行い、トイレでの排泄ができるようにしている。	排泄に関して自立している方も若干名いるが、任せたままでなく、さり気なく見守っている。日中はトイレでの排泄を主とし、夜間もタイミングをみて誘導している。入居後のケアによりパット類のサイズダウンや使用枚数が減った方もあり、これは費用負担の軽減にも繋がっている。トイレ内は車いす利用でも十分な広さがあり、手すりや可動式ひじ掛けの設置は自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供したり、こまめな水分摂取の声掛けや、飲み物の工夫などを行い対応している。毎日の体操や定期的な散歩、日光浴なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には曜日や時間帯などを決めていますが、その時の利用者様の体調や気持ちに応じるように対応している。	入浴は週2～3回を目安としているが、風呂の準備は毎日できているため希望や必要があればこの限りではない。一人ずつ、ゆっくりと寛いでもらう中で想いを話してくれる方もある。嫌がる方には無理強いせず、タイミングをずらしたり、曜日を変更して対応している。冬場のヒートショック対策では脱衣場の暖気が浴室側も温めており、湯上りには安定感のある椅子で身繕いもできる。またリフトの設置や縦・横の手すりが安全な入浴を支え、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せるという見守りのケアでもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状況や体調などに応じて支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な往診や利用者様の状態を主治医に報告し、指示のもとに処方された処方薬を説明書にて目的や用法、用量を再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内に小さなお花畑を作っており、水まきや毎日の洗濯物干し、外で体操、歌、風船バレー、ひなたぼっこなどを行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には散歩に出かけたり、玄関先で日光浴、風船バレーやお茶会、季節の花が咲いた時にはドライブに出かけたりしている。	コロナ禍を経て、外出の機会は少しずつ増えている。入居者から話が出た地元の懐かしい場所へ出掛けたり、天候や体調をみて当日に決まる外出もある。周辺への散歩や庭先での日光浴は日常的に支援され、五感の刺激にもなっている。玄関先だが訪問販売のパン屋さんでは買物を楽しみ、ドライブは数回に分けることになるが、車いす利用であっても一緒に出掛けている。その際のスナップ写真がホーム便りにも掲載されるよう期待している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の利用者様が少額を所持されており、理容室代を払ったり、使えるように支援している。またご家族様より預かっている少額のお金により臨機応変に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様自ら電話されることはないが、電話をしてほしいとの要望があれば電話をかけ取り次いだりしている。ご家族様からのお手紙で、返信のお手紙を書いてもらい投函した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、利用者様はリビングや椅子、ソファーなどに座り自分のペースで休憩したりテレビを鑑賞されたりしながら思いおもいの時間を過ごされている。季節感が分かりやすいように壁に飾りつけなど行い工夫をしている。	入居者の価値観を大切に、壁には季節が感じられる飾りが貼ってある。ソファーの配置は考慮され、それぞれに座る場所があり、日中は並んで話をする場面もみられる。入居者の動線上に行動を妨げる物はなく、西日などはレースカーテンで調節している。道路脇ではあるが騒音もなく静かな環境である。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、換気のため常時開けておく箇所もある。トイレや浴室などはきれいに掃除され嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くはないが、自分の場所として過ごす場所は各個人で持たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド及びチェストは施設で設置しているが、他の物については使い慣れた私物を使用されている。ご家族様の写真を貼ったりして、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。使い慣れた物をと伝えている。居室にクローゼットがあることで整頓ができ、室内はすっきりと片付いている。家族の写真や花の鉢物を置く方など、思い思いの居室である。また天井には換気扇が設置しており、窓の開放ができない雨天時でも換気を可能としている。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家庭と同じである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	今後も生活環境には十分配慮し、臨機応変に整備 を行っていきたいと考えている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、 事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない